

令和5年度

PBL教育 協力企業を募集します

群馬大学理工学部では、実践力の高い学生を育成するため、令和4年度から問題解決型授業であるPBL教育（Project/Problem Based Learning）を導入しました。

PBL教育では、大学で講義を受けた学生が、小規模のグループで実際に企業の皆様のところにお伺いして、テーマとなる課題を発見する実習を行うこととしており、令和5年度の実施分について、実習にご協力いただける企業を募集します。

ご関心がある企業の皆様には詳しいご案内を送付しますので、下記【連絡・お問合せ先】にご連絡くださいますようお願いいたします。

【PBL教育の流れ】

大学内での講義

課題発見のスキルを育成するための講座



企業実習

8月21日～8月31日
の任意の2日間
※基本的には初日は半日間



成果発表会

学生が大学において、
実習成果等を発表



※企業実習につきましては、学生を5人程度のグループに分けて派遣します。

※受け入れていただくグループ数は、1グループから歓迎します。

※企業実習の内容は大学から指定いたしません。企業の実情に合わせて自由に設定してください。

（ただし、怪我の恐れがある業務、個人情報取扱業務、機密性の高い業務等はご遠慮ください）

※今後、内容を一部変更する可能性があります。

想定されるご協力参加企業様のメリットの例

群馬大学との
連携強化

学生に対する
企業情報発信

商品開発や情報発信
に学生の意見活用

SDGs推進や地域貢献
の一環としてPR

詳しいご案内を送付しますので、以下の必要事項をご記入のうえ、E-mailまたはFAXにて、下記の連絡先までご連絡をお願いします。

（※連絡フォームの指定はありません）

【ご連絡時の必要事項】

①企業名（※業種、事業規模等不問）

②所在地

③ご担当者連絡先（お役職、氏名、電話番号、Eメールアドレス）

★手続きの都合により、資料請求及びご協力の可否につきましては、**3月30日(木)まで**にお願いします。

★PBL教育の推進には、多くの企業の皆様のご協力が必要です。是非、ご検討、お問合せください。

【連絡、お問合せ先】

群馬大学理工学部 中島

TEL：0277-30-1003

FAX：0277-30-1041

E-mail：pbl@jimugunma-u.ac.jp

1 実施概要

- 8月21日～31日の中で任意の連続する2日間(*土日は数えません)に、学生グループが企業を訪問して実習を行います。(具体的な受入日程はご要望により調整します)
初日は半日(ご挨拶など)とし、2日目は8時間程度の研修を実施していただきます。
- 基本的には、5人で1つのグループとしますが、グループあたりの人数は相談に応じます。
- 受入グループ数は、1グループから受け付けますが、2グループ以上のお申出も歓迎します。
(※複数グループを受け入れていただく場合、別日程での研修としていただくか、又は同一日程の場合は、それぞれ別のテーマを学生に与えて研修する等の対応をお願いします)
- 実習内容は大学から指定しませんので、企業の実情に合わせて自由に設定してください。
(※怪我の恐れがある業務、個人情報取扱業務、機密性の高い業務等をご遠慮ください)

2 実習の例

※以下に参考例を示します。参考例は特定の企業の実習内容を紹介したものではありません。これ以外にも、企業の実例に合わせて自由に設定してください。
不明な場合は、ご相談ください。

(例1) オリエンテーション(業務説明、職場見学)

- 製品やメニュー、サービスの企画
(現状の課題は何かあり、どういうものが、どうしたら売れるかなどを検討)
- 商品企画プランを発表
- 講評

(例2) オリエンテーション(業務説明、職場見学)

- 検査や組立等の安全な工程の作業体験や、設備等を見学
- 作業手順や、現場に課題や改善点がなかったか議論
- 見つけた課題と、その解決プランを発表
- 講評

(例3) オリエンテーション(業務説明、職場見学)

- 従業員と一緒に、店舗での販売や営業活動などを体験
- 学んだこと、良かったこと、課題は何かを議論
- 見つけた課題と、その解決プランを発表
- 講評

(例4) オリエンテーション(業務説明、職場見学)

- 集客力(知名度)を向上するためには、どう改善したらよいかを議論
(ターゲットに向けた効果的なPR方法、SNS等の活用、HP、店舗の改善など)
- 見つけた課題と、その解決プランを発表
- 講評

(例5) オリエンテーション(業務説明、職場見学)

- 各部門から業務の詳細を説明
- テーマを選択(売上拡大、ムダの削減、女性活躍、SDGs推進、人材採用、安全等)
- 担当者への聞き取りや現場調査を行うなどし、課題を抽出して、解決プランを発表
- 講評